

第6回 神奈川県ボランティア活動推進基金審査会

平成29年12月12日(火) 13:30~20:40

(開会)

(基金事業課長から開会の説明)

- ・石渡委員、柴田委員、中島委員欠、委員5名での開催予定。
(中島委員に代わり、為崎幹事長職務代理者がオブザーバー出席)
- ・本日の流れを説明
15時00分から、平成30年度ボランティア団体成長支援事業のプレゼン審査。
16時30分から、プレゼン審査に対する選考を行い、18時10分から結果発表。
18時30分から、平成29年度奨励賞受賞者の選考審査。
その後、事務局から来年度負担金の調整状況等について報告。

(審査会長から開会の宣言)

- ・平成29年度第6回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会を開催。
- ・率直な意見交換を通じて、公平な審査をする必要があり、神奈川県情報公開条例第25条第1項第2号に該当することから非公開とする。
ただし、プレゼンテーション審査は公開する。
- ・中島委員欠席のため、幹事会から為崎幹事長職務代理が出席。

(審議事項1 平成30年度ボランティア団体成長支援事業の選考)

(基金事業課長から以下について説明)

- ・ボランティア団体成長支援事業の応募状況説明
- ・来年度の成長支援事業に係る予算について説明
- ・審査委員と利害関係のある団体からの提案なし

(事務局からプレゼン審査対象団体の提案概要(資料1)について説明)

(為崎幹事長職務代理から幹事会での事前調査結果について報告)

(委員による審議)

- ・ボランティア団体成長支援事業への提案事業に対するプレゼンテーション審査における確認事項等について検討した。

(プレゼンテーション審査の実施)

ボランティア団体成長支援事業への提案事業に対するプレゼンテーション審

査を次のとおり行った。

【プロボノ・プラットフォーム構築事業】

特定非営利活動法人サービスグラント（以下「サービスグラント」という。）
によるプレゼンテーション実施。

（質疑）

（小松委員）

県内 45 団体で既に実績があり、神奈川県に特化したプログラムとの事だったが、具体的にはどういうことか。

（サービスグラント）

基本的にボランティアというのはローカルな性質があり、近くでボランティアが出来るといのはメリットがあると思う。県内たくさんのスキルを持った社会人の方、リタイヤされた方がいらっしゃるので、そういった方が参加できる機会を増やし、県内で網の目を細かくしていくことで、必要としている団体が、必要としているサポートが受けられる仕組みができるのではないかと考えている。

（小松委員）

プロボノワーカーを増やして、網の目のようにというのは支援する側の目線で、逆に支援を受ける側の目線としては何が違うのか。何か一押しのようなものがあればお聞かせ願いたい。

（サービスグラント）

繰り返しになるが、神奈川県内に特化していることで、今までだと東京の団体に手を挙げている感覚になると思うが、神奈川県プログラムであることから、神奈川県は手を挙げやすいのではないか。

（小松委員）

ボランティア活動をめぐる神奈川県の特徴はどのようにとらえているか？

（サービスグラント）

ボランティア活動について神奈川県は進んでいるところもあるが、一方で古くなっている部分があると思う。活動の伝統がある部分をどう刷新して、新しい世代に引き継いでいくことが課題だと思う。

(小松委員)

古くなっているというのは、ミッションの問題であつたり、NPOというのは個人商店的な性格が強いなどということか？

(サービスグラント)

担い手が高齢化しているということがあると思う。今言われた部分を否定するつもりは無く、よいものはしっかり残していきたい。何でもソーシャルビジネスや社会起業家みたいになれば良いという気持ちも無い。良いところを今風にしたり、若い人達に届くようにしたり、組織が、閉塞感があるところを開いて、世代を超えるコミュニケーションが作れることが大事ではないかと思う。

(小松委員)

若い人がどんどん入らなければいけないということか。

(サービスグラント)

絶対とは言わないが、若い人の中でつながりたいと思っている人がいたら、そうしていったほうが良いと思う。

(小松委員)

NPOで働きたいという若い人が結構いると思うが、現実の問題として、NPOで働いていたら家庭を持ってないというケース、働きたいけど働けないなどの支援をされたことがあると思うが、どうしたらよいと思うか。

(サービスグラント)

NPOに転職するというのは現実的に難しい状況だと思う。その一方で、NPOというのは、境界線があいまいな組織で、多様な関わり方ができる。仕事をしながら、まずは仕事をしながらボランティアベースで関わり、それが面白くなってきたら、お小遣い稼ぎ程度で関わったり、時間がたつといずれ、事務局長として関わったり、1かゼロかという関わり方ではなく、中間的な関わり方ができるのがNPOの特徴だと思う。シニアの方だが、50代からプロボノを始め、何回か行った後、60歳の定年を迎えた時点でNPOの事務局長になった方がいた。少しずつNPOと企業人の距離を近づけていけるところに、可能性を見出したかと思っている。

(小松委員)

提案の中で、10 団体の支援をするとのことだが、その条件の中に、平日の夜あるいは休日とある。プロボノワーカーの方は昼間仕事を持っているが多だろうから、やむを得ないとも思うが、条件をつけてしまうと、本当に支援が必要な団体がこぼれてしまう心配がある。それを承知でこのような条件をつけているのか。それを承知での提案だとすると、今回の委託費用は税金から出るため、ちょっとどうなのかな、と思うが。この条件は動かないものか。

(サービスグラント)

これは動かすことは可能。実際ビジネスパーソンがプロボノを行おうとすると、平日夜や休日になってしまうが、今年の10月、11月に実施したプログラムでママボノというものもある。これは産休中や育休中の方で、1~2年会社のブランクがある人が、仕事のスキルを取り戻すというもので、通常のプロボノ以上に成果を出しており、むしろ平日昼間の活動になる。来年度については、いただいたご意見を反映していきたいと思う。

(長坂会長)

明確にしたいのは、神奈川県对企业に対してプロボノワーカーを派遣してもらおうということだと思うが、具体的に何社位を目標に、どのような形で企业にプロボノワーカーを派遣してもらうのか。

(サービスグラント)

プロボノワーカーの募集方法であるが、企业経由で募集する場合と、個人で募集する場合がある。両方を走らせたいと考えている。企业に関しては5社から10社くらいを考えている。実際に企业から派遣するとなると敷居が高くなり、初年度から参加してくれるかわからない部分もある。そういう点では個人の方に呼びかけを行い参加していただく方法も並行して行っていきたい。結果的に個人の方の企业に持ち込んでいくという方法もあるかなと思っている。

(長坂会長)

プロボノに来てくれる方は全く素人のわけで、研修や、チームビルディングについて提案書に書かれていないが、どのように考えているか。

(サービスグラント)

プロボノの方はビジネススキルなどに関しては専門性を持っているが、NP〇やボランティア団体というのは初めてなので、通常の仕事とボランティアで

の活動はどのように違うのかについて、プロジェクトが始まる初期の段階でオリエンテーションを実施する。プロジェクトに参加いただくときに、皆さんの目線を合わせた状態で参加していただく。具体的な成果物を明確にすることが、チームビルディングの重要なポイントだと思う。

(長坂会長)

支援対象を提案書の 10 団体から 15 団体や 20 団体に増やすことはワーカー達の応募も含めて難しいか。

(サービスグラント)

倍というのは厳しいかもしれないが、2、3 件ならば可能だと思う。初年度は数を増やすというよりは、ここでやったことを次年度以降につなげていくという基盤を作っていくことに、費用を充当していくことがよいのではないかと思っている。今年度は成果というより、見本となって次年度につながっていくことを目指したい。

(長坂会長)

神奈川で行う場合、地域に中間支援組織が出来上がってきているところだが、そういうところと一緒にいたり、東京で培った方式とは違う、新しい方式などは考えているか。

(サービスグラント)

サービスグラントがすべてを行うという考えは無く、できれば地域の中間支援組織にノウハウを移転できるようにしていきたい。

【人材マネジメント力向上によるNPOの基盤強化事業（仮称）】

特定非営利活動法人アクションポート横浜（以下「アクションポート」という。）
プレゼンテーション実施。

(質疑)

(大川委員)

平成 26 年に受託した事業について簡単に説明願いたい。

(アクションポート)

基本的には同じ様な提案になるが、若手の人材を受け入れたいというNPOに対して、受け入れの支援を行った。若い人に限定していたわけではないが、若

い人を受け入れるような仕組みができることによって、多世代が参加できるNPOになっていくという支援を行った。

(大川委員)

その時は何団体くらい対象だったか。

(アクションポート)

20 団体を対象に行った。

(大川委員)

実際に若い人材を受け入れることができた団体は何団体くらいあったのか。

(アクションポート)

基本的に全団体に実施をした。

(大川委員)

全団体が受け入れ態勢を強化するプログラムを行った結果、若者を受け入れることができたということか。

(アクションポート)

前期と後期に分け、10 団体ずつ講座を実施して、受け入れのプログラムを考えていただいた。例えばイベントを実施するとか、拠点をオープンにして色々な人が来られるような場を作るなど。そういった場を作り、最後に報告会をする流れの伴走支援を行った。全団体、形はそれぞれだったが実施した。

(大川委員)

今回の提案と前回の違う点を教えていただきたい。

(アクションポート)

目指す方向は同じだが、伴走型というのは労力がかかったり、メンターとして入っていった際、メンターに頼ってしまったり、持続力が難しかった。そのため、スタイルは残しながら、セミナーとギャザリングを入れる。セミナーを入れることできちっと動機付けをして、我々メンターは一時的なので、自分達で受け入れの仕組みを作れるように動機付けをすることと、そこに参加している団体同士がつながれる、集合研修でつながりを作って、持続可能な横のつながりを作っていくことで、より持続可能な支援であったり、継続的な受け入れ態勢作りをでき

るような仕組みを作っていくようになっている。

(大川委員)

前回 20 団体で、今回は 15 団体となっているが、なぜか。

(アクションポート)

今回は 1 年間を通じて、セミナー、ギャザリング、伴走支援を行っていくので、15 団体という形のほうが、より深くコミットできると考えた。

(大川委員)

上限 720 万円の委託事業であるが、より高額の基金を委託するのであれば、より多くの団体を対象としていただいたほうがありがたいと思うが、その点についてどう思うか。

(アクションポート)

前回の実績も踏まえてというところで、一つ一つの支援の質を高めるということを考えると、一つの団体に対してコミットを高めたり、伴走支援にかかる時間等、一つ一つを高めたいと考え、現在の団体数となった。

(大川委員)

今回公募して 15 団体くらい支援するとのことだが、これまでつながりのある団体が対象の中心となるのか、全くつながりの無いところを対象とするのか。

(アクションポート)

全くつながりが無いというのは難しいと思うが、基本的に新規の団体を考えている。

(大川委員)

今まで、何らかの形でネットワークの中に入っている団体以外のところからの公募を中心ということか。

(アクションポート)

そのように考えている。

(大川委員)

3 年間でのべ 35 団体を支援したと在るが、若者の派遣を支援した団体が 35 団

体ということか。また、35 団体は今回公募する 15 団体に含まれていないということか。

(アクションポート)

はい、そのとおり。

(長坂会長)

申請書を見る限り、人材受け入れの行動指針の策定が目標となっているとのことだが、作ったあとの具体的な支援方法を考えておられるか。

(アクションポート)

その後のことについては、この事業の目指すところはネットワークであり、この中に伴走者も入り、ネットワーク基盤というものを、この事業を通じて残したいと考えている。

講座の中で行動指針もあると思うが、加えて実践的なノウハウをトレーニングしていきながら、実際に受け入れをしていくことも起こりうると思うし、横のつながりと中間支援とのネットワークがあって、事業終了後もお互いに磨きあっていくネットワークを作るところが企画の重要な点でもある。

(長坂会長)

実施場所は横浜市内か。また、講座も集合研修も団体のリーダーが来るわけだが、今課題なのは後継者をどうやって見つけるかという部分も含めて、団体全員の人達が全員で話し合うことがとても重要で、伴走者の人は現場のフィールドまで行って行動指針を考えるのか、講座や集合研修に参加したリーダーがつくるのか。

(アクションポート)

集会的な研修などは参加者の皆さんの中間になるのかと思うが、伴走するところは団体の現場にも行ける様に、伴走者を横浜に限らず、県域から選定し近い距離で支援したいと考えている。

(長坂会長)

伴走者と支援対象のマッチングに自信はあるか。

(アクションポート)

実際始まってみないと判らない部分もあるが、もし、今リストアップしている

伴走者とフィックスしない場合は、他に経験のあるメンバーで対応を考えている。

【NPO支援機関の専門力強化およびNPOと支援機関のマッチングによる中長期計画策定支援】

関内イノベーションイニシアティブ株式会社（以下「関内イノベ」という。）プレゼンテーション実施。

（質疑）

（高橋委員）

これまでの地道な分析と積極的なチャレンジから、しっかりとした成果があらわれているということも改めて確認できた。

その中で、これから4年目ということで、また、次のステージになるのではないかと思われ、2つの新規の事業を追加されているが、この時期とステージアップ等について、まず、全体的なところを教えてほしい。非常に力のある団体ですので、期待も含めて伺いたい。今回、3つの事業もとても大事であるとの認識のもと、例えば全体的なこの事業が是非、神奈川県内に継続してもらえるといいなどの期待も込めて。

申請書の中に、仮に、委託が終了後も引き続き県内でボランティア一団体に対する支援を行う意志があると記載している。中間支援という非常に大事ではあるが、もしかしたら、継続の難しさもあると思われるが、もし、委託事業を仮に終了した時に、団体としてどんなふうに継続ができるのか、計画されているのか、教えてほしい。

（関内イノベ）

中間支援組織は、受益者である団体からのお金がいただけないことだと思っている。そして、いただく方も、何かむしり取るような感じになってしまって、そうならないようにどうしたらよいのかということは考えている。

この伴走支援というのは、講座ごとに人を導入しているのではなくて、始まってから終わりまでずっと伴走する。ですので、コスト的には、この委託事業ではぜんぜん足りないのだけれども、仮にこの事業がとれたら継続できると考えている。もしこれが取れないようであったら、個別の相談対応という形で、いくらかは負担いただくが、対応していきたい。

提案書には書いていないが、将来的には、非営利の助成財団の組織を作りたいと思っており、それに繋げられるような、この助成金を使ってやるわけではないが、そういった流れを作っていくというふうにはしないと、私どもは株式会社では

あるものの、そのところに投入していける資金がないので、別の形で対応していきたいというふうに考えている。

(高橋委員)

委託がない場合にも継続は非常に難しいと思われるが、その意志があるということなので、力のある団体であるので、聞いてみたかった。

(関内イノベ)

後は、一つは、結構大きな、遺贈などを受けている団体があって、受けた団体がそのお金をどう使うのか非常に悩んでいる。そこへの相談が誰も出来ていないこともあり、そういったところに私どもとしては、そのお金に加えて、例えば、調査事業に仕立てるとか、いろんな資源を活用しながら、次のステージに行くお手伝いをしていく、そこを多少の資金としていきたいと思っている。

大きくは出来ないけれども、やる手段はあると考えている。

(高橋委員)

イメージが分かった。申請書の中で、課題というのが何個かあげられているが、これまでの3年間やってきた中での課題、特に、ノウハウの移転というのも様々やられている一方で、NPO支援機関のスタッフのセミナーへの参加が得られないというのが、少し気になる。

神奈川県内の全ての支援機関にメールや訪問などもしたけれども、うまくいかないという整理をされているかと思われるが、ちなみに、全てはというのはどの位の機関にアプローチして、どれ位しか参加しなかったのかが一つ、なぜ、この人達が中々参加してもらえないのかという整理と、これはどうやったら解決できるのか、この3点について教えてほしい。

(関内イノベ)

NPO支援のリストについては、全県を、特に横浜市や川崎市の細かいものもあるが60から70あったと思う。

それに対して、川崎市とか横浜の小さな団体は、そんなに人がいないので、そこへは案内程度だが、少し大きめの平塚とか、横須賀とか、そういうところには、訪問し説明をさせてもらっている。

なぜ、参加出来ないかについては、横浜、川崎以外では、多くは指定管理で仕事を請けているケースが多く、余剰のスタッフがいなく、窓口から離れてしまうと業務が果たせないということをよく聞き、団体の代表の方におかれても中々難しいのが現状。

ただ、今回の講座もそうだが、土曜日や夜など、出やすいときに来てという声かけはさせてもらっていて、できるだけコミュニケーションをとるようにしているが、現実にはそう変わらない。

スタッフの参加が得られないことよってのインセンティブ、やはりこういうことを身に付けることよって、また他の資金とか、お金だけではないではないが、チャレンジをすることができるよになると、中間支援団体自体が力を付けない限り、そのステージにいかないと思っており、例えば私どもは、ほとんど非営利事業を行っているが、そういったプログラムを、成長支援事業で受託をするよとも、シェア室を運営し、そのお金を補填している。そういった、どういったモデルチェンジができるかっていうことを一緒に考えていく、そのようなことも少し働きかけていきたいと思っている。

(高橋委員)

最後になるが、新計画に、プロボノの人たちを入れてというのが一つの柱になっている。

計画などを作成した後の成果というか、プロボノというのは、団体のニーズとマッチして成果が出るのではないか、そのあたりの分析などがあれば教えほしい。

(関内イノベ)

今回は、実はプロボノ参画はない。なぜかというよ、まず、団体も問題を自分たちで掘り下げたときに、そこが明確でないというよがあり、そこで、NPOに寄り添っていただいている支援センターが参画することで、そこは補填している。

私どもは、ミスマッチというものを非常に問題視しており、今どうしてもプロボノ参加に目が行くが、団体の方に軸足を置かないよ不幸なマッチングになるよと思っている。そここのところがあわない人たちは、引き合わせない形で、事務局が一応対応させてもらったり、支援センターとのミーティングの中で伝えていくという形をとっている。

なので、たぶんプロボノの参画は、もしこの事業が採択されれば、来年度以降に実現するかというふうよに考えている。

ただ、Webのところとか、一部お願いできる人にはお願いしており、そういったスキルマッチングのところでは、この枠組みでなくとも、引き合わせはしており、そういったいろいろよ組み合わせながら実施をしている。

(田中委員)

今の点で確認させていただきたい。

今回提案された事業の中には、金融機関のスタッフをプロボノとして育成することを大変重視して、新規軸とされているが、今の説明では、それは現場の団体に合うかどうかということで、少し線を引かれている。線を引きつつも、この金融プロボノの育成が重要だとお考えになったのは、どういう理由か。

(関内イノベ)

今、実は、今回の研究会は、3期目のボランティア団体のあり方研究会のところで、金融機関の方に積極的に参加呼びかけたところ。実際に来ていただいたのは、このリストの中の、日本政策金融公庫、横浜銀行、八千代銀行、それから神奈川信用金庫に参画いただいている。

まずは、参加をいただいて、NPOって怖くはないよということを知っていただく趣旨で、今回やっている。

私どもが、イメージしているのは、イタリアのトリオドス銀行というのがあり、金融協同銀行、協同組合が設置する銀行が、事業型の企業者やNPOを応援するにあたり、金融機関のOBが、企画書を作成したり、それをサポートする、それをイメージした体制が横浜、神奈川でできないかということを考えて、そのプロボノを今回作るということを考えている。

(田中委員)

今のことで、さらに質問だが、金融プロボノを育成するということ、それからこういった金融機関との関係を深めて、そこでしっかりとした海路を切り開くというのは、少し違うように思うが、それについてどのように整理しているのか。

(関内イノベ)

そこもこれからのチャレンジと思っている。まだ、金融機関は、NPOを優良だとは思っていないけれども、お金を貸せる相手だと、政策的にも変わってきているというのが一つ、それでも、地域に出ている金融マンは、それを実感している。そのこのところを埋めるために、私どもが、言い方は悪いかもしれませんが、マインドリセットしていかないと難しいかと、という意味で、そういう方々をつかまえるためにも金融機関をつかまえておかないと、会うこともできない。かなり金融機関はその後、OBになった金融マンの情報をつかんでいるようなので、そういう意味でも、今回の事業でつかみたいと考えている。

(田中委員)

いずれにしても今ようやく関係ができ始めたというところだと思うが、そう

すると、ここに非常に優れた専門性を既に有しているというふうには考えておらず、これから専門性を団体自身が身につけていくという理解でよろしいか。

(関内イノベ)

プロボノについてか。それは既に有しており、それはなぜかというところ…。

(田中委員)

金融について。

(関内イノベ)

金融については、一応、浜銀総研とずっと繋がっていて、浜銀は、地銀のネットワークを持っていることから、どこをどうくっつけばよいのかについては、チームで把握しているつもり。

(田中委員)

少し話題が変わるが、昨年、今の平成 29 年度実施事業の中で、社会的企業ビジネスモデル研究会、これは単年度で、今回の提案には組み込まれていないように思われるが、これの成果、そして、来年度提案している事業の中に、直接ではないにしても、どういうふうに使われているのか、それについて説明願いたい。

(関内イノベ)

「ボランティア団体のあり方に関する研究会」に名称変更しており、これについては、今回、大きな 3 番目の事業に入れており、これで継承したいと思っている。さらにここでは、プロボノのプログラムについても検証してもらい、いろいろな意見をいただきブラッシュアップをしていくとか、後は、ソーシャルビジネス支援ネットワーク構築の新規プロジェクトというところで、人を出してもらおうとか、全て連携していきたいと考えている。

この研究会のネットワークを活かして、さらに 3 年後のこういった形にできたらいいなあというふうを考えている。

(長坂会長)

日本版のトリオドス銀行を作ろうという意欲は、大変素晴らしいと思う。いざにしろ、必然的にそれを作らねばならないと思う。

ただ、この成長支援事業の本来の目的は、市民団体を支援するというところで、今までずっと実施してもらった。

この事業で、それらの支援を受け享受できるのは、この仕組みができあがった

後の話。

資金を含めて組織人として、市民活動を行う団体が支援を受けることができる、その必要性について間違いないと考えるが、また、先ほどの説明した3つの事業をひっくるめれば間接的にそれぞれ関わると思われるが、この成長支援事業の中で、1年間支援を行う通常の市民団体との関係、それら市民団体を成長させることとの関係について、もう少し詳しく説明してほしい。

(関内イノベ)

大きく3番目の事業がどれ位、費用がかかるのかという理解でよろしいか。

(長坂会長)

「NPO・ソーシャルビジネス支援ネットワーク構築事業」の中でいろいろ行うことがどう関わるのかということ。

(関内イノベ)

私としては、そういう文化を作りたいというふうに思っており、金融機関に限らず、NPOの重要性というのを知っていただく団体、アクターが増えてくださることが一つ、それは日常的に私どもがやっているわけだが、この中では特に、ここが資金的に支援をしてくださる団体に注目をしたということ。

ただし、ここで今回、平成29年度は8団体だが、支援している団体の中に、非常に任意団体がたくさん出てきている。鶴見ママワークというのは、本当にママさん達が集って、地域の情報を地図に落とししていこうというのを草の根で始めており、中区のママルークの会さんというのは、地域に出て行きたいママさん達を集めて、ちゃんと組織化したいというふうに考えている。そういった団体との連携ももちろんあって、この人達は特に金融機関は関係ないけれども、将来的にはこういう団体がそういった形になるようにサポートしていくことは考えている。

(長坂会長)

将来的には。ただ、来年の事業の中で、そちらの団体が仕組みを構築するための申請だろうということか。

(関内イノベ)

一応それは理想系というのは、全部この形でやるというのは思ってなく、基本は、このボランティアエースにかかるお金が半分以上だと思っている。

(長坂会長)

少し重要なので、もう少し質問したいが、今まで支援を行ってきた中長期計画を策定するというのも、ある意味では、プロボノ等と書いてあったので、そういったメンター的なものが、先ほど、伴走型と言ったので、見てみると、講義があり、それから団体の方へのギャザリング、集合方式が中心であって、各団体の現場の人達が集まってもらい、そこで一緒になって計画策定をつくる、今までのやり方というのはそういう方式だったのか。とりあえず講義方式と集合方式でやってきたということか、確認したい。

(関内イノベ)

エースプログラムの4回は、横浜市中区の会場に来てもらっている。

そこから、団体訪問なども入れたりしているが、それは、団体の事業を私どもがもっと見たいとか、参加者同士の繋がり、例えば1年目は、川崎の産業観光のところに行ったりとか、いろいろやっている。

(長坂会長)

最後にもう一つ聞きたい。

先ほど成果のところ森ノオトのケースを紹介してもらったが、今まで3年間やってきて、どういうことをやってきたのか私も知りたくていろいろと探したが、どこを見ると成果がでているのか。

非常に貴重な貢献をさせてこられたわけなので、ここに見ればそれら3年間の成果がでているとか、分かれば勉強したいと思ったのだが。

(関内イノベ)

終わった後に提出をという約束をしているが、3年まだ経っていないので。

ただ、毎年、5ヵ年計画を立てたA4の10枚位のシートの報告書を事務局に提出している。

本当は、戦略の構図とかシナリオ等をHPにあげようと思っていたが、団体の全てを見せてしまうことになるので、それは、自分達と、県サポ(事務局)の方には提出をさせていただいていることから、それにとどめている。

今後は、成果を発信するために、アレンジをするなり、団体の了承をとって、そういうものを発信するというのも考えているが、まずは3年間ということ。

(委員による審議)

・ボランティア団体成長支援事業への提案事業に対するプレゼンテーション審

査の結果を踏まえて審議を行い、対象事業を選考した。

・担当委員の間で、結果発表の際の各提案団体に対するコメント案を作成し、全員で確認した。

(結果発表)

(長坂会長)

特定非営利活動法人サービスグラント「プロボノ・プラットフォーム構築事業」を平成30年度ボランティア団体成長支援事業としてふさわしい事業として選考した。

それぞれの団体について、担当委員より、審査会における評価の詳細を発表いただく。

【プロボノ・プラットフォーム構築事業】

団体名：特定非営利活動法人サービスグラント

(小松委員)

サービスグラントさんが実績十分であることは、審査員一同認めるところであります。

皆さんの活動で、プロボノの理解や手法が神奈川に根付くことを期待するとともに、プロボノを通じて企業の社会参加が促進されると考えております。

評価された点は、ボランティア団体と成果物を合意した上で支援を行っていくことです。ボランティア団体の自主性を最大限に尊重した手法ではないかと思えます。

さらに、プロボノワーカー 50人ほどの組織を県内で運営し、最終的には引き渡すということです。それによって、地元根付いた新たな支援の仕組みが構築されると考えられます。もちろん支援団体へのフォローよろしく願います。

一方で、神奈川らしさが薄いという指摘が出されました。

プレゼン冒頭、「神奈川に特化したプログラムを提供する」と説明がありましたが、具体的な内容は示されませんでした。

ボランティア団体はローカルな性格が強いという説明もありましたが、地域にこだわった支援事業を展開していただきたいと思えます。地元の中間支援団体との連携も視野に入れていただければと思います。

1年という短い期間ではありますが、素晴らしい成果を期待しております。

【人材マネジメント力向上によるNPOの基盤強化事業（仮称）】

団体名：特定非営利活動法人アクションポート横浜

（大川委員）

今回の提案は非常に意欲的な提案で、支援メニューも充実していたと思います。

平成26年度の成長支援事業の提案では、市民活動団体が人材不足ということと若者の受け入れをサポートするということで、非常にそれも良かったと思います。平成26年度に20団体、今回も15団体を想定しているなど、今回提案のあった3団体の中では最も支援対象が多いことから、費用対効果の点で非常に評価すべきとの意見がありました。

ただ、残念ながら今回は選考されませんでした。

理由としましては、平成26年度は伴走型の支援を行ったということで、非常に成果があがったとお話されていましたが、今回のプレゼンの中では伴走型は手間がかかると否定的な意見が聞かれました。

審査会としては、伴走型について非常に評価が高かったことから、手間がかかるのでギャザリングや集合研修で補うということで、その辺が、評価が高くなかった理由です。

また、「代表ひとり奮闘型」、「運営メンバー高齢化型」、「当事者交代型」といった第二創業期にあるNPOを支援するというお話だったのですが、今回のプレゼン内容ではその支援の内容が課題解決に対して十分ではないのではないかという意見が出されました。

今後は、前回の伴走型が、非常に評価が高かったので、伴走型プラスアルファということで、再度成長支援事業にご提案をいただければと思います。

【NPO支援機関の専門力強化およびNPOと支援機関のマッチングによる中長期計画策定支援】

団体名：関内イノベーションイニシアティブ株式会社

（高橋委員）

今回は、残念ながら、選考されませんでした。

これまで、成長支援事業として、非常に難しい事業の組み立ての中、神奈川県の中で先頭をきって、事業をすすめてきていただいたこの3年間の実績は大変敬意を表すのと同時に、他団体のこれからの見本になっていただいたのだと思っております。

本当にありがとうございます。

一方、今回選考できなかった具体的な理由として、今期の選考にあたり、3年目を迎える今回は、中間支援組織をとおして、各団体が成長できるような仕組みが大事であり、これまで支援してきた団体が具体的にどのように成長してきたか、成果の可視化を行っていただき、この支援事業の重要性を、課題をかかえた団体や第三者へもより理解が深まるよう、工夫した情報発信の努力をお願いしていましたが、こちらに関しては今回のご提案では、具体的に継続した支援として認識することができませんでした。

これらも踏まえ、この事業は、大変難しい事業とは十分承知しておりますが、私たちが期待していた中核としてのボランティア団体の支援に関し、より分析、改善に踏み込んでいただいたり、ノウハウ移転のための NPO 支援機関をより巻き込んでいただきたかったなどの点において、残念ながら次年度にその具体的な策が見出すことができませんでした。

さらに、今期新規事業となっている社会的企業ビジネスモデル研究会の成果物を多くの方がみて、共通理解をはかれるよう、事業後の情報公開を是非行っていただきたかったのですが、これらを吸収された新規事業としてご提案いただいた、「ボランティア団体を対象にした相談会」や「NPO・ソーシャルビジネス支援ネットワーク構築事業」は、とても大事な事業であると認識する一方で、成長支援事業と御団体の自主事業とのすみわけが中々しにくい内容であったこともありました。

今回は選考されませんでした。御団体は、大変お力のある団体でありますから、是非これまで3年間のノウハウと実績と持前のチャレンジ精神を活かし、神奈川県内のボランティア団体の支援に、これからも是非寄与いただきたいと思います。

(総評)

(長坂会長)

皆さん、今日はありがとうございました。

日頃から皆さんの力をいただきまして、神奈川県内のいろんな団体が成長している姿を私たち自身、よく知っております。

しかし、今回は、私たち自身が成長支援事業をどうとらえるのかということが問われた審査会でもありました。そういう意味では、とっても厳しい議論がいろいろとありました。

まだまだ立場が違うのかなあと、アプローチが違うということも、はっきりとつかないか、とても印象深く、とても勉強になりました。

どの団体の皆さんにお願いしても、事業としてはしっかりとやっていただけ

る。これだけの実績と経験をお持ちの皆さんですので、そういう点では本当に問題ないのですが、私たち自身もやっぱり、基金21事業審査会の中で、この成長支援事業というのは、唯一単年度の事業でありますので、この事業をどうとらえるのかということが問われたわけで、私たちがこの成長支援事業について、皆さんのお力を借りて、団体をどう成長させていくのか考えなければならないわけですが、やはり、原点としては、成長支援事業というのは、中間支援団体として市民団体の成長を支援する専門性がある団体に実施していただくということがまず、ベースにある。その中で、いろんな情報を得るとか、ネットワークが広がるとか、いろんな形で支援団体の皆さんが成長できることがあれば、素晴らしいことだと、それこそが成長支援事業だと思います。

今回、そういう点で、関内イノベーションイニシアティブにならなかった理由の一つは、新規の新しい事業があって、それはこれから作り上げていこうという事業なわけで、それが協働事業負担金だとか補助金とかであれば対象になりうるのですが、成長支援事業として対象となるのかというのが大きな問題でした。

ゼロから、これから作り上げていくプロセスというのは、本事業の対象とは違うだろうというのが大きな理由でした。

皆さん（関内イノベーション）がいろんな3年間積み上げられてきた中から、この結論を得て、これを作り上げていくことが本格的な成長支援の事業として、一層の支援が出来るのだと結論づけられたことについては、本当にそのとおりでと思います。これは別の手段として、例えば自主事業としてやっていただき、これが神奈川の中で出来れば、素晴らしいなあと、その必要性はとても強く感じているところであります。

そして、もう一つ、私たちがいつも考えてきていることは、この成長支援事業というのは、他には中々無いことから、その手法について、私たちはいろんな手法を試したいという気持ちが最初（第1回）からありました。

基本的には、講演会がある、集合的な研修がありという手法の中で、基本的には、どの団体もそこがメインになるわけですけれども、それにプラス、メンターがつくと、そういう中で、例えば、様々な団体が今までチャレンジしてくださった手法があり、今回、私たちにとって、やはりもう少し試してみる手法があるのではないかと、まだ行われていないものは何かという選択の中で、私たちは、今回、サービスグラントを選ばせていただきました。

これは、今までプロボノということは、皆さんから言われてきたわけですが、やはり集合的なプロボノの育成に終わってきた。本当に団体側のニーズに柔軟かく添いながら、プロボノのチームを派遣してやっていこうという手法については、今まで、そういう申請がなかったのもので、私たちにとって、これは神奈川でプロボノに理解のある企業や、プロボノをやりたいという社員が広がって

くという、神奈川にもプロボノ文化が広がっていく可能性があるというところに、とても大きな期待を持っております。

先ほど、神奈川で本当にやる気があるのかという意見もあったわけですが、そこは、本音としては、神奈川に是非、プロボノ文化を大きく広げてもらう。

これはあくまでも成長支援事業で、単年度事業であるので、今年やったら、1年間だけで十分でなかったから来年度もということは、基本的にはないと思っていただかないといけないわけですので、是非、来年度1年の間に、サービスグラントの全精力をかけ、神奈川にプロボノ文化を広げていただけるように、本当に必死の努力をお願いしたいなあという気持ちで私たちは採択させていただきました。

そういう点では、期待が大きすぎるかも知れませんが、サービスグラントさんにとっては、長い実績がありますので、きっとそんな大きな問題はないものと確信をしております。

今回応募いただいたところも含めて、私たちは、これからも皆様方のお力を必要としております。残念ながら、神奈川県にはまだまだ中間支援組織が数多くありませんので、これからも皆様のご支援を必要としておりますので、どうかよろしく願いいたします。

最後となりますが、選考できなかった団体には大変申し訳ありませんが、是非ご理解の程、よろしく願いいたします。

また、今後とも、新しい手法を考えながら、申請していただくということを頭の中に入れて、新しい申請を心から期待しておりますので、どうかよろしく願いいたします。

本日は、本当にありがとうございました。

(審議事項2 平成29年度ボランティア活動奨励賞受賞者の選考)

(基金事業課長から以下について説明)

- ・(資料2) ボランティア活動奨励賞の推薦状況
- ・(資料3) 奨励賞評価集計一覧
- ・(資料4) 奨励賞幹事評価結果
- ・(資料4-2) 奨励賞現地調査票
- ・(参考1) 平成28年度ボランティア活動奨励賞の受賞者一覧
- ・(参考2) ボランティア活動奨励賞審査基準
- ・審査委員と利害関係のある団体からの提案なし。

(事務局から以下について説明)

幹事による採点結果、幹事会で出た主な意見、資料の見方などについて、資料 2、3、4、4-2、参考 1、参考 2 により説明。

(委員による審議)

- ・ 為崎幹事長職務代理者から幹事会の事前調査結果について報告
- ・ 審議の結果、表彰対象として 5 者を選考した。

(その他 平成 30 年度協働事業負担金における審査会意見及び現時点調整状況 (一部) について報告)

(事務局から以下について説明)

平成 30 年度協働事業負担金における審査会意見及び現時点調整状況 (一部) (資料 5) について説明。

(閉会)

かながわ県民活動サポートセンター所長からあいさつ。

次回審査会日程 (1 月 31 日)